

内視鏡用炭酸ガス送気装置導入のお知らせ

従来の大腸内視鏡検査では、空気を注入していました。空気送気の場合、なかなか腸管内の空気が抜けきれず、検査後もお腹の張りや不快感で苦しむ方がおり、つらい検査と思われていました。

当院では二酸化炭素（炭酸ガス）送気で検査をより楽に受けられるように、炭酸ガス送気装置を導入しました。これは、空気の代わりに炭酸ガスを注入することにより、検査後の苦痛を大幅に軽減することが可能となる装置です。炭酸ガスは空気と比べ極めて吸収がよく、すぐに吸収されます。送気を中止すると速やかにお腹の張りが軽減いたします。

